福島県立図書館・ふくしまサイエンスぷらっとフォーム
（spff）連携事業

spff＆福島県立図書館

科学小話（カガクコバナシ） 第５回

今回のテーマ
『自然をとらえるリアルな目 ―観察―』

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム
http://www.spff.jp/

このコーナーは、ふくしまサイエンスぷらっとフォーム（spff）会員の科学コラムと、福島県立図書館「こどものへや」担当者の子どもの本の紹介となっています。

【図書館・公民館図書室・学校図書館のみなさまへ】
こちらのコーナーは、館内掲示に限って、複写・切り取りをして利用することができます（点線に沿ってお切り下さい）
上記以外の目的でご利用されたい場合には、福島県立図書館・児童図書研究室までお問い合わせください。

私は歴史学の講義で学生に解剖をみせることがある。講義室前方の机に豚の眼球・心臓・大動脈などを並べ、ハサミ・カミソリ等で解体する。学生には解剖の様子や解剖した器官などの詳細な記録を課す。その様子はパドバ大学外科学教授の A.ヴェサリウスの『人体の構造に関する七つの書』(1543 年：通称『ファブリカ』)の扉絵に似ている。

この書物は人類史上最初の正確な体系的人体解剖書として著名だ。その扉絵には中央に死体とそれを解剖する男(ヴェサリウス)が描かれ、それを数十人の人々が取り囲んでいる。学生や医師、町の要職者さらに人体解剖に批判的な人々、従来の動物解剖を意味するサルとイヌなどが描かれている。当時の一般的な解剖学講義では実際に解剖を行っていたのは大学教授ではなく、腕はいいが理論も医学用語も知らない「理髪外科医」なる職人だった。大学教授は古い医学書を読み指示をするだけ。そこには理論と実際の分離が見られる。『ファブリカ』の扉絵で興味深いのは、自ら解剖を行わない大学教授を骸骨で表現するなど当時の封建的な医学に対する風刺となっていることだ。また学者が市民や学生の前で実際に人体解剖を行い、対話を通して事実を探るという方法は、ほぼ同時代のガリレイの著書『天文対話』(1632 年)『新科学対話』(1638 年)にも見られる。ヴェサリウスの解剖書は古い権威や思弁に対して自ら実際に「観察」した事実に基づき自然のしくみを認識していくことが重要視されるきっかけとなった。

ちなみに解剖図を描いたのは画家のカルカル。ダ・ヴィンチらルネサンスの芸術家は絵画や彫刻制作のために人体解剖を行い、人体の構造やものが見えるしくみ理解し、芸術作品に大きな影響を残したが、同時に上述の自然科学の「観察」という手法の獲得にも影響を与えたことを忘れてはなるまい。

★ｓｐｆｆコーディネーター　岡田　努／福島大学

【このテーマに関する 子どもの本】

◆「床屋医者パレ」　ジャンヌ・カルボニエ／著　藤川正信／訳　福音館書店　1969

近代外科学の祖、アンブロワーズ・パレの伝記。16 世紀フランスでは、床屋は簡単な外科治療を行う医師としての役割も兼ねていました。パレは苦境に屈せず念願の床屋医者になりますが、やがて軍医として幾度も従軍し、負傷した兵士のためによりよい治療を施そうと探究を重ねました。パレの医学と命に真摯に向きあう姿から、彼の医者としての使命を果たそうとする意志の強さ・尊さが伝わってきます。小学校高学年～**※福音館書店版，福武文庫版共に現在絶版です。図書館でお問い合わせ下さい。**

＊参考＊『謎の解剖学者ヴェサリウス』(坂井建雄／著　筑摩書房　1999)

ヴェサリウスはパレと同時代に生き、医学の発展に大きく貢献した人物です。彼の著書『ファブリカ』やその生涯を通じ、自ら解剖し、見たままを的確に観察するという、科学の基本となる姿勢を示したヴェサリウスの精神に触れます。高校生～

福島県立図書館　展示コーナー企画
子どものための科学読みもの展
～みる・かんがえる・たしかめる～
2013 年3月8日（金）～6月5日（水）
子どもたちの好奇心に応える科学読み物の多様さ、面白さを伝える展示です。ご来館の際には、ぜひご覧ください。

【ご質問・情報はこちらへ　福島県立図書館・児童図書研究室】
〒960-8003　福島市森合字西養山1番地
TEL 024-535-3218　FAX 024-536-4787